

根川公園に関する説明会（根川雨水幹線ポンプ場の建設に伴う準備工事）

令和8年2月6日開催分

日 時：令和8年2月6日（金） 18時30分から20時00分まで

場 所：根川地区センター

出席者：狛江市

総務部安心安全課長、
教育部社会教育課長、社会教育課文化財担当副主幹、
環境部長、環境政策課長、下水道課長、

下水道課下水道浸水被害軽減対策担当主査
調布市

総務部総合防災安全課課防災対策担当課長、
環境部下水道課長

司 会：狛江市下水道課主任

（司会）

皆さま、本日はお忙しい中、説明会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の進行役を務めさせていただきます。狛江市下水道課事業経営係主任の大橋と申します。定刻になりましたので、只今より、「根川公園に関する説明会（根川雨水幹線ポンプ場の建設に伴う準備工事）」を開催いたします。

まず、説明会開催に際してのお願いが3点ございます。

1. 記録のため職員が会場の撮影（会場後方から撮影）・録音をさせていただきます。個人情報については、法令に基づき適切に管理いたします。なお、会場内での写真撮影・録音・録画については、ご遠慮願います。

2. 携帯電話・スマートフォン等の音の鳴る機器は、電源を切るかマナーモードに設定をお願いします。

3. 質疑応答の時間でお伺いしきれなかったご質問については、同封の質問票にて個別にお問い合わせください。

また、本説明会の議事の要旨は、準備ができ次第、狛江市のホームページで公開いたします。

続いて、本日の説明会の流れをご説明します。お手元にごございます「次第」をご覧ください。本日は、次第の裏面に記載しております部署の職員が出席しております。資料の内容に関する説明を概ね20分、その後質疑応答を45分程度予定しており、説明会の終了は午後8時を予定としております。限られた時間の中でございますため、円滑な進行にご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、開会するにあたりまして、狛江市環境部長一瀬より挨拶をさせていただきます。

(狛江市環境部長)

皆さま、こんばんは。狛江市環境部長の一瀬でございます。

本日は、お忙しい中、根川公園に関する説明会（根川雨水幹線ポンプ場の建設に伴う準備工事について）にご出席頂き誠にありがとうございます。

令和元年10月の令和元年東日本台風では、調布市、狛江市の両市において甚大な浸水被害がございました。両市では、これまで様々な浸水対策を実施してまいりましたが、この度、令和7年5月の説明会で説明させて頂いたポンプ施設について、準備工事を開始するため、本日、皆様にご説明する機会を設けさせていただきました。根川雨水幹線ポンプ場は、令和元年東日本台風の再度災害防止に向けた施設でございます。今後も調布市、狛江市が連携して進めてまいりますが、皆様のご理解とご協力が不可欠であると考えてございます。本日は、限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

では、A4横・ホッチキス留めの資料によりご説明します。

それでは、説明をお願いいたします。

(狛江市下水道課浸水被害軽減対策担当主査)

狛江市環境部下水道課浸水被害軽減対策担当主査の梅川と申します。

着座にて説明させていただきます。

資料をご覧ください。右下にスライドごとのページ番号を振っております。説明する際には、ページ番号を申し上げますので、ご参照願います。

1ページをお願いいたします。

(スライド1)

本日の次第です。

はじめに、「1. ポンプ施設の検討概要」について説明させていただきます。

次に「2. 準備工事の概要」について、令和8年度に行う準備工事の概要を説明させていただきます。最後に「3. 質疑応答」の時間を設けます。

1ページ飛びまして、3ページをお願いいたします。

(スライド3)

六郷排水樋管の流域について説明します。調布市と狛江市、両市にまたがる流域として、主要な幹線を模式的に示しています。黒の実線で囲った範囲の雨水が幹線を通って六郷排水樋管から多摩川に放流されます。

4ページをお願いいたします。

(スライド4)

こちらでは、浸水被害の状況をシミュレーションによってコンピューター上で再現し、被災当時の最大水深が分かるような図と被災当日の写真で説明しています。

5ページをお願いいたします。

(スライド5)

狛江市ではこれまで、逆流防止ゲートの設置など、さまざまな浸水対策を実

施してまいりました。本日説明するポンプ施設の設置により、令和元年東日本台風と同規模の台風が来ても、浸水が生じないように再度災害防止に取り組むこととしました。

6 ページをお願いします。

(スライド6)

今回設置するポンプ施設についてご説明いたします。

ポンプ施設は、根川雨水幹線流域のすべての雨水を集めて排水するため、流域の最下流部に位置する必要がありますが、その整備に適した用地は根川緑地を一部含む根川公園の一带しかないので、根川公園内に設けることとしました。

ポンプ施設は、定置式ポンプを3台設け、その他、既設の逆流防止ゲートに加え、新たに逆流防止ゲートを設置します。

7 ページと8 ページをお願いします。

(スライド7)

7 ページの左側には平面図、右側には断面図を示しています。平面図のオレンジ色で囲った部分がポンプ施設で、赤色部分を含めてポンプ施設用地となります。右側の緑色の部分、青色の部分、上側の緑色の部分が公園として残る部分になります。右上の図は定置式ポンプの仕組みを説明しています。定置式ポンプは既設水路とは別にポンプを設置するもので、逆流防止ゲートが既設水路に必要となります。

(スライド8)

8 ページは南西からの鳥瞰図において矢印で水の流れを表現しています。

根川雨水幹線の水が除塵機でゴミが濾し取られ、定置式ポンプにて押し出された水が吐出水槽を経由し、逆流防止ゲートで囲まれた管路を通過して多摩川に排水されていきます。

9 ページと10 ページをお願いします。

(スライド9)

計画中のポンプ施設についてです。

令和7年5月の説明会等でいただいたご意見を参考に、修正をしています。

まず、建屋の高さを抑える対応として、屋上の目隠しルーバー（高さ2.0m）をガラスパネル手摺（高さ1.13m）に変更し、屋上北側の手摺を約4.8mセットバックしております。続いて、建物の圧迫感を減らすため、建屋の上部の色合いを明るくし、2階相当高さに窓を増設しております。

(スライド10)

10 ページは比較した鳥瞰図です。

左側が前回の鳥瞰図、右側が今回の鳥瞰図となっております。

11 ページをお願いします。

(スライド11)

こちらがポンプ施設の南西から望む鳥瞰図です。

なお、公園施設及びさくら通りの植樹帯の復元につきましては、図の中に描

いておりません。

12 ページをお願いします。

(スライド 12)

こちらがポンプ施設の北側から望む透視図です。

13 ページをお願いします。

(スライド 13)

こちらがポンプ施設の南側から望む透視図です。

次に「2. 準備工事の概要」について、説明させていただきます。

15 ページをお願いします。

(スライド 15)

今回の説明会では、令和 7 年 5 月の市民説明会でお示したスケジュールの、赤枠で囲んだ令和 8 年度部分について説明します。

16 ページをお願いします。

(スライド 16)

準備工事のスケジュールについて説明させていただきます。

令和 8 年 5 月に根川公園の周囲に仮囲いを設置します。工事が始まりますと、根川公園を全て使用できなくなります。次に、移植できない樹木について、伐採を行います。樹木伐採後に、遺跡の本調査を行います。その後、移植できる樹木の移植を行い、本工事に入ります。根川公園の復元については、公園の設計を行う前の検討過程で、周辺にお住まいの方のご意見を伺ってまいります。

なお、本工事については令和 7 年度から引き続き、令和 8 年度も詳細設計を行い、本工事の着手前に説明会を開催する予定です。

17 ページをお願いします。

(スライド 17)

根川公園周囲の赤線の部分に、仮囲いを設置します。

高さは 1.8m になります。本工事の着手までこの状況になります。

18 ページをお願いします。

(スライド 18)

次は樹木についてです。公園のすべての樹木について、樹木診断を行いました。樹木診断の結果、活力度判定において「やや不良から不良」され、掘り取りが困難、発根力が弱い樹種については、移植が困難と判断されました。ここで、活力度とは樹木の元気さ、健全性を示します。

移植が可能な樹木については、現地の樹木にピンク色のリボンで明示しております。移植先は西河原公園の予定です。

次ページ以降に移植可能な樹木の一部を紹介します。

(スライド 19～21)

樹木位置図の番号をピンク色で着色した樹木が、移植予定の樹木です。

19 から 21 ページに移植可能な樹木の一部の位置と写真を載せております。

22 ページをお願いします。

(スライド 22)

遺跡調査についてです。

根川雨水幹線ポンプ場の建設予定地である根川公園は、文化財保護法第 95 条に基づく「周知の埋蔵文化財包蔵地」【**坑上遺跡**】の一部に該当します。

坑上遺跡は、府中崖線に沿った台地の縁辺部に広がる遺跡で、これまでに 16 の地点で発掘調査が行われています。

23 ページをお願いします。

(スライド 23)

これまでの調査成果から、西側崖線に沿った台地縁辺部や兜塚古墳の近くで、様々な時代の遺構・遺物が調査されています。

24 ページをお願いします。

(スライド 24)

令和 7 年 8 月に実施した試掘調査では、調査可能な場所が限られたものの、台地上からは、住居跡の一部とみられる遺構が確認されました。これまでの調査成果を参考にすると、府中崖線際には中世の遺構が、台地上には縄文時代から古代の遺構が残されている可能性が高いと考えられます。

以上の結果から、工事着手に先立ち、公園全域を対象に本調査を行います。

25 ページをお願いします。

(スライド 25)

発掘調査の方法について、詳しく記載がありますのでご覧ください。

また、調査に当たり、調査資材・重機等の搬入、残土の搬出等、出入りは都道側から行います。

26 ページをお願いします。

(スライド 26)

遺跡とは別に、旧玉翠園の石垣について説明いたします。

試掘結果より、根川公園内を横切る旧玉翠園の石垣は、現在の地表面下約 2.4 m の深さから積み上げられており、本来の高さは約 3.6m に及ぶことが明らかとなりました。石垣の下では、旧根川の護岸とみられる構造物が残っていることが確認されました。

以上の結果から、石垣の構造及び工法を確認するため、記録を取りながら石垣を解体し、石垣に覆われた崖線を露出させ、より古い時代の遺構や遺物が残されていないか確認を行います。

なお、安全対策のため、調査手順が変更になる可能性があります。

27 ページをお願いします。

(スライド 27)

「今後の取組」について、説明いたします。

説明会終了後に、公園に一時閉鎖予告看板を設置します。

令和 8 年度に施工業者が決まり次第、準備工事のお知らせビラを配付します。ポンプ施設の設計概要については本工事前にあらためて説明会を開催します。

なお、これまでの検討経過や浸水被害軽減の取組は、狛江市ホームページに掲載していますので、下記のQRコードよりアクセスしてください。

資料の説明は以上です。

(司会)

続きまして、「質疑応答」に移ります。

まず、「質疑応答」については午後7時50分を目途に終了とさせていただきます。

質疑応答にあたり、皆さまに4点お願いがございます。

1. ご質問のある方は手を挙げていただき、司会の私から指名をさせていただきます。係の者がマイクをお持ちいたしますので、マイクがお手元に渡ってからご発言をお願いいたします。

2. ご発言に際して、「狛江市和泉本町1丁目の大橋です」等と、お差支えない限り、はじめにお住まいの地域とお名前をおっしゃってください。

3. 回答の整理が困難となるため、一度の挙手につき一つの質問でお願い申し上げます。繰り返しとなりますが、一度の挙手につき一つの質問でお願いいたします。時間の範囲で複数回ご質問いただくことも可能です。ただ、一部の方に偏らず、なるべく多くの方にご質問をいただけるように指名をさせていただきますので、ご理解をお願いいたします。

4. 一人でも多くの方からご質問をお受けするため、発言時間についてご配慮いただきたく、ご質問は短く簡潔にお願い申し上げます。

それでは、挙手をお願いいたします。

(司会)

こちらから3列目の前から2番目の方お願いいたします。

(参加者××氏)

5月に説明会があったということですが、ちょっとそこは出席しないので、そこで説明したみたいなのがあるかもしれないんですけども、よろしいでしょうか。

それで最大疑問をですね、一度災害対策を行ったはずなんですけれども、再度、このような形で、ポンプの建屋を作り、そしてポンプ内に新しい流導路を作って、逆流防止施設を作るということ、今回またやるということなんですけど、なぜ最初に作った、最初にした対策では不十分で、そういうことまでしなければいけないかということが、すごく疑問です。それではやはり調布市域の雨水の流れる量とか、そういったものも関係すると思いますので、おそらく調布市さんなんかとの協議で、これぐらいの流下水量を、今後も流し続けるとか、そういったことがあるのかなと思ひまして。狛江にとって非常に大切な場所に、全部壊してですね、作ると。しかも、六郷用水取水口跡地の護岸であるはずなんです。そこを、あそこに住宅地ができる時に、もっと根川沿いまで石垣があったのを、どうしても

護岸擁壁の強化のために、壊さなきゃいけない。しかもそこに検査道というか、1メートル半ぐらい作らなきゃいけないということで、かなり根川沿いの石垣を壊した経緯があります。その時に、都道側の石垣だけでも残して欲しいということで、残していただいて、玉翠園跡あるいは六郷用水取水口跡の遺構であるということで残していただきました。ところが根川公園という名称つけられたんですね。なぜ、玉翠園跡公園とか、そういう名称を使わないのかと、その時ちょっと質問をしたら、実証の調査が不十分でそういう名称を使えないというお話だった記憶があります。本当に非常に大事なことであるのに、なぜここをこれまで、いわゆる今初めて見たんですけど、非常に古い7世紀頃の遺跡だということもわかっている、なおかつ六郷用水取水口跡だという検討はもう誰でもわかっているのに、その検証に着手をせず、こんな壊してしまうような建屋を作る工事になるまで、何も文化財に対してやってこなかった。これをもっと数年前にやっていたら、非常に大切な場所ですので、それ以外の設計、それ以外の対策方法が考えられたはずですよ。こんなふうになるまで、バタバタして今更これ大事ですとかいうことを言い出している。この狛江市の文化財行政にしても、しかも平安時代の遺構だけでなく、縄文平安だけではなくて、近世の遺構をやっぱり残すということが非常に大切なんですよ。いわゆる江戸時代に作った六郷用水でその検証すらしていないということで、もう規模と第二次的な対策をやり始めて、しかも近隣調布との雨水の処理の経過を勝手に狛江市が引き受けると。それでは文化財行政がちゃんとやってこなかったから、そういうのを勝手に引き受けてるわけですね。もっと早く大切なことをやっていれば、ここは手が付けられないと。もうちょっと流域の下水量を減らす調布市さんにも、他にも多摩川に出すような道があるんじゃないか、そういうようなことも考えていただけたんじゃないですかね。こんなことにしてまで、こんな状態になってまで、今更遺跡がありますとか言って。だからこのもうちょっと下を掘れば3.7メートルの高さだったわけですよ。六郷用水取水口だったんですよ。3.7メートルまで作ってたわけだから。昔の写真が残ってるじゃないですか。屋形船やって、多摩川から六郷用水辺りにね、ありますでしょ。その姿がわかったはずなのに何でそれやってこなかったのかということをお答えいただきたい。

(司会)

今のご質問ですが、当初に想定したものが検証等もされてない状態で、今回のポンプ場になったということでご質問いただいたと思いますが、ご質問の内容といたしましては、当初の計画から今回のポンプ場に移った経緯の検証等含めてということよろしいでしょうか。

あと、文化財についてのご質問です。

(狛江市下水道課長)

狛江市下水道課長、岩崎と申します。こちらのポンプにつきましては、今回資料の4ページをまずご覧ください。4ページの右下のところ、令和元年東日本台風の時に、浸水がどのくらいあったのかっていうのを、シミュレーション上で

再現したものになります。こちらについて今までいろいろ対策をしてきておりまして、今までやってきた対策で、どこまで浸水が低減するかというのが、5ページの右側の図になります。こちらが逆流防止ゲートをやりつつ、多摩川の河床掘削等もろもろの対策を踏まえた上で、最大ここまで浸水を軽減はできるんですが、こちらを見ていただくと、浸水そのものは、残っているんですね。こちらの浸水を当時、350世帯ぐらい浸水していますので、浸水を解消したい。という対策につきまして、これだけでは足りないということなので、ポンプ施設が必要になるというのが、ポンプ施設の必要性になります。

それで、次6ページを見ていただきたいんですが、6ページの右側の図です。こちら流域そのものは、すごく広大な流域があるんですが、その流域の水というのは、ここの三本の幹線で集約されて流下してきます。こちらの三本の水というのは、すべて多摩川の方に放流しないと、浸水っていうのはなくなる。こちらの三本の水を全部取水するためには、一番ここの下流部六郷排水樋管の合流点近くから水を抜いてこないといけない、というのが、ここでポンプ施設を作る意義になります。

こちらは根川公園っていうのがありまして、当然遺跡等があるというのは、理解しておるんですが、そのような浸水を解消するためには、ここでなければいけないというのがございますので、今回こちらでポンプの方を設置させていただくというような計画にさせていただきます。以上です。

(司会)

文化財の方を先に回答させていただいてよろしいでしょうか。

文化財の方お願いいたします。

(狛江市文化財担当副主幹)

いろいろ厳しいご意見をいただきましたが、我々もその場所が、玉翠園の跡地であって、それにちなんだ石垣だということは重々承知しているところです。玉翠園の歴史、地域にとっての歴史的な価値ですとか、そのあたりも調査をしまして、令和2年度に刊行してます、狛江市の中ではその辺の成果も含めて、取り入れています。さらに4年度に出してる普及版の中でも、そういうことは改めて、昔の写真などを使いながら、そこはそういう場所だったということは、周知に努めてきているところです。

我々の方で作っております市内の文化財の散策マップにも玉翠園の跡ということで取り上げさせていただいていて、決してその場所の持つ歴史性みたいなものをないがしろにしているとか、否定しているということではないと考えております。

(司会)

冒頭でもご説明させていただきましたが、なるべく多くの方からご意見をいただきたいと思っております。挙手をお願いいたします。

一番こちらの列の一番前の方お願いいたします。

(参加者〇〇氏)

中和泉1丁目の〇〇と申します。

この間の工事の進め方、あと市民に対する説明の仕方について、意見をしたいんですけども、主眼となるところはもちろん防水対策、浸水被害をなくすという防水対策ということは主眼であって、あと今日、公園がなくなるよってことで説明会があったと思うんですけども。

ただ、今、文化財の担当の方からのお話のあった玉翠園の史跡として文化財としての価値、それについての検討がどうだったのか。特にこの間の説明会、去年5月、8月を見てますと、根川の雨水幹線流域における災害防止だとか、調布都市計画下水道とか、そういった名称でされてたので、私も全然玉翠園の石垣が取り壊される、そういう計画だと全然知らなかったです。玉翠園のその文化的な価値、史跡としての価値。そういったものに関心を寄せる方がたくさんいらっしゃると思うんですよ。ですからぜひですねもっと市民の幅広い、そういった防災とか、公園の利用だけではなくて、文化財としてのその価値についても、意見を広く聞いていただいて進めていただきたいと思います。ついては、市からは石垣を取り壊すってということで今回案が出てますけれども。私はぜひもうこの玉翠園の目に見える形で残ってるものってのも石垣しかないの、ぜひこれは残す形で、或いは移設でもいいです。例えば一部でもいいので、切り取って樹脂で裏を固めたり、そういう補強する形で、再整備する根川公園で展示するとか、何かこう目に見える形でぜひ残して欲しいということと、あとここが玉翠園だったんだということについての説明板ですね、それをぜひ、新しくできる根川公園に作っていただきたい。5月とか8月の説明会の回答によると、今、都道の近くの部分ですね石垣の残ってる部分に設置されてる説明板を再整備する根川公園に移設するってお話だったんですけども、果たして今の時代その説明板で足りるとお考えなのかどうか。

玉翠園が料亭として開業して、その園内には林間学校のための宿舎もつくられたりしてありますけれども、戦争中は、そこは協和会に、朝鮮人から供出させた金で売り払われて、協和会の錬成道場となった。協和会とは何かって言えば、朝鮮人を皇民化させて、戦争に動員する徴兵を行って、動員するそのための軍事教練が行われたのが、この場所です。戦後朝鮮人が解放されて、在日本朝鮮人聯盟（朝聯）という組織ができました。戦時中朝鮮人から集めた金で買い取らせたんだからということで、朝聯がこの場所に、玉翠園の料亭とか宿舎の建物を利用して、朝聯中央高等学院を作った、そして、朝聯幹部の養成とか、自分たちが37年間植民地支配されてきて言葉も失い、歴史も失い、文化も失った、そういったものを取り戻すための民族学校の教員を養成する学校として設置された、そういった場所です。ところが、1949年になって、GHQと政府は朝聯に団体等規制令を適用して、この中央高等学院は閉鎖されます。

今残ってる根川公園にある看板にはそういった戦時中のこと、戦後のことは何も書かれてない。今、行政には、多様性、多文化共生そういったものを尊重することが求められると思うんです。ですからぜひそういった戦時中戦後の歴史も含

めた、説明看板をぜひ根川公園を再整備するところには、作って欲しいということ
を申し上げます。

(司会)

玉翠園をいかに残すかということと、説明看板の中身の充実という形で、現状
意見という形でよろしいでしょう。

ではこちら意見という形で承らせていただきます。

では次に挙手をお願いいたします。

一番こちらの列の前から3番目の方、お願いいたします。

(参加者□□氏)

□□というところに住んでいます、□□と申します。

今ですね、去年の説明会の時に全く玉翠園とか、遺跡のあるっていう話は全く
出てこなかったんですよね。その辺は狛江市の保存会の方っていいですかね。ど
う考えてらっしゃったのかなと思って。今になって急にもって言い出して、これ
です。もう時間がないからすぐ通せよと、そういう考えなのか、1年前だったら
ある程度ね、皆さん知恵を出して、他の解決方法とか、そういうのを考えたと思
うんですが、何か急に、私も去年出てたんですが、玉翠園ですかね、その辺のこ
とは全く言われてなかったんですよね。その辺は文化財の方はどういうお考えだ
ったのか、去年は全然知らなかったのか知ってて、工事やっちゃえば、そこまで
やらないだろうとか思ってたのか、その辺をちょっとお伺いしたいと思う。

あとですね、もし公園残すんだ。ちっちゃい公園になりますけれど、その玉翠
園の跡とか、跡地公園とか、根川公園っていうのをやめてですね、新しくそうい
う公園の名前にしてもいいんじゃないかなと考えておりますが、その辺いかがで
しょうかということをお伺いしたいんです。

(司会)

まず去年の説明会の中では話が出ていなかった文化財に関するところの工事
について、二つ目は、公園の名前についてということ。ありがとうございます
。文化財の担当の所見をお伺いしたいということでございます。回答をお願
いいたします。

(狛江市下水道課長)

狛江市下水道課長の岩崎と申します。去年の説明会ということでちょっと去年
の説明会の資料出ますか。ページ数が17ページ。こちらが令和7年5月9日、
10日に開催いたしました説明会の資料です。こちらのスライドにつきましては、
5月の説明会の際に、皆様に説明させていただいたもので、こちらの根川公園の
石積みにつきましては復元した公園で再利用する予定ですのでということで書か
せていただいております。こちらのですね、公園の復元イメージということで書か
せていただいているんですけども、こちらの園路の脇にですね、玉翠園の石垣を
使ってですね、イメージがわくような形でやるというような形の絵にしています。
説明板につきましてはこれです。ここに説明板、今説明を差上げた石垣の一部
の同じ石を使ってですねこのような形で一部を残すような形で、ここに石垣があ

りましたっていうのをわかるような形にしたいっていうのを、説明させていただいております。

公園の復元方法につきましては、皆様のご意見を伺いながら、今後詰めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

(参加者□□氏)

すいません。今の意見といいますかお答えですと、結局玉翠園とかですね、そういう名前ってのは全然出てきてないですよ。非常に大切なものだとか。そういう形には何にもなっていないんですね。ただ公園の石積みがあるからそれをちょっとこっちに移しましたっていうだけの話で。全く我々もね、聞いたときにそういう重要なものだっていう認識を与えないような説明だったんですよ。その辺はどうなんですか文化財の方は、もうこれは文化財じゃないと、そういうお考えなんですよ。その辺を聞きたいんですが。

(狛江市文化財担当副主幹)

大切ではないから壊しても良いっていう判断ではないわけなんです。ちょっとその前回の説明会の時に、石垣は可能な限り再利用という形で説明はされてるということですが、分かりにくい部分があったということかもしれませんが、基本的には大切なものではないから、壊してしまえばいいっていう判断をしているわけではないということをご理解をいただきたいと思っております。

(狛江市下水道課長)

先ほどのお話なんですけど、ここでないとポンプが機能しないってところがございまして、どうしてもここでなければならない。そしてこのポンプ施設の建設にあたって、石垣の上に乗っかってしまうような形になりますので、残すっていうのは、浸水対策ができないっていうことになってしまいますので。石垣を残せるものなら残したいと思っておりますけども。

(参加者××氏)

上に乗せられるんじゃないか。

(狛江市下水道課長)

上に乗せるのではなくて、工事そのもので、ポンプはこちらの建物の地下部分にございまして、上としては、このように見えますけれども、実際のポンプそのものは地下にございまして、この部分が全部全体的に一旦掘られてしまつて、ポンプ施設ができるということなので、こちらの石垣については、壊さざるをえない。ただ壊すといつても、皆さん、思い入れのあるものですので、なるべく生かせるようについでいうところで、今考えております。

(司会)

なるべく多くの方に発言させていただきたいので、挙手をお願いいたします。こちらから、2番目の前から3番目の方お願ひします。

(参加者△△氏)

元和泉の△△でございまして。その工事の責任体制というか、工事の主体が前回の説明会では調布市・狛江市というふうになってたようですけれども、この工事

の主体として計画を作っておられる主体は、調布市と合同でやってるんでしょうか、狛江市だけで独自にやっておられることなんでしょうか。ちょっとお聞きしたいと思いました。

(司会)

こちらの計画につきまして調布市と合同で行っているのか、狛江単独で行っているのかというご質問ですが、ご回答をお願いいたします。

(狛江市下水道課長)

狛江市の下水道課長の岩崎と申します。こちらの施設につきましては、令和元年東日本台風の浸水を防ぐということで、浸水被害は狛江のみならず、調布の方にも甚大な被害を及ぼしたということで、計画を作るに当たりましては、狛江市、調布市で協力して、計画の方を練ったところでございます。ただ、こちらの施設につきましては、狛江市の施設になりますので、こちらの施設を設置する主体としては狛江市になります。

(司会)

では次の方、挙手をお願いいたします。

(参加者××氏)

すいません、再質問になりますけれども、浸水防止ということでごめんなさい、5月も来てませんので、そもそも逆流防止っていうのは多摩川の水が根川のほうに入ってこない、あるいは住宅地の方に入ってこないためにゲートを閉めますよね。令和元年の時は閉めなかったから多摩川の水が入ってきたのと、それから上流の方からの、いわゆる雨水が根川に流れて来たので、でもゲートは閉まってなかったんですよ。その時の報告でどういう水がどういうふうに影響したかの報告がね、推定だけれども、結果は出たと思うんですよ。それで第一次の対応をしたと思うんですよ。だけどさらなるということで、ご説明いただきました。今の質問で、5ページにまだ薄いブルーの部分が浸水する可能性があるんだと。そういう意味で、逆流防止ゲートと、それから、そこに溜まった水をポンプで排出するということをするっていうわけですよ。それはだから、多摩川の水が越水するのではなくて、住宅地の雨水が流れてくる。それに対して、樋管のゲートはもう多摩川の水が入らないように閉まっていますから、ポンプ使って多摩川に流すと、というような機能ですよ。そのシミュレーションが今やってくださって対応したもので、まだちょっとこの5ページにある薄い水色の部分が、足りないという想定で浸水するかもしれないからということでさらなる強力なポンプ建屋を作ると、それから地下に穴を掘って多摩川に流すということですよ。だけど本流は大水(おおみず)ですよ、その時はすでに想定する時は本流の多摩川はね、流す多摩川はものすごい水も増えてるはずじゃないですか、そういうところでやるわけでしょ。まだ、もちろんその越水しないにしても、土手から1.2メートルぐらいだと、警戒区域なんか越えちゃうでしょ。でもまだ越水してないところに、住宅地の雨水をゲートが閉まっているからポンプを使って流すわけでしょ。上から流すんじゃなくて、下から流すっていうポンプ建屋ですよ。今回。上から流すん

ならまだわかるんですよ。あの根川に溜まった水をねガンガンガン強力なポンプで、土手を越えて上から流す多摩川に、何故かという、ゲートが下がってるから、それならわかるんだけど、下に流すわけだよね。多摩川の本流のもうお腹の中に根川の水を流していくっていうポンプを作るんでしょ。それ有効なのか、もうちょっと素人的にわからないんだけど、上から大量にポンプで排出できるようなものを作れば、いいんじゃないかなって思うんですよ。そうすれば、根川の上に作ればいいわけですよ。根川の横に建屋を作って、その地下に複流を三本作るんだか二本作るんだか、そういう構造も排水機関じゃなくて、根川の上にもっと強力な多摩川に向かって流せるような建屋だって可能んじゃないですか。それとやはり調布市さん側にも雨水の何らかの対応ですよ、いっぺんに多摩川に流れないような。一時の台風ないし集中豪雨、ものすごい量だったらわかるんですけど、それを調布市が主にほとんど調布市ですよ。これ根川水域は、調布市さん側から流れてくる雨水を、いっぺんにここにこないようにするような対応を、調布市さんに要望をしたのかしなかったのか。多少したと思うんですけど、そういうことの検討も足りないと思います。

(司会)

すいません、ちょっと質問を1回整理させていただきたいのですが。

(参加者××氏)

そんなことやってると時間なくなっちゃう。地形の復元が大事なんです。今、平らにされちゃうでしょう、今の図だと。要するにあそこは崖ですよハケ下。物理的に崖があって、その上に古墳とか古代人が住んでいた。多摩川の河床はもっと低かったんですよ。そうですよ。だって3.7メートルあったんだから。砂利を取ってたんですよ、昔、多摩川本流から水を取ってた。ね。だけど、さらに下がっちゃって、水が来なくなって、六郷用水はドブ川になっちゃったんですけど、だからそういう、要するに地形を残さなければ意味がない。石垣だけペコッと取ってね、脳みそのなんか頭の頭蓋骨だけ取って、そこに飾って置いても意味がないんですよ。あんなふうに道路から平らに入ったら意味がない。地形の保存をしなければいけないと思います。これは要望です。そうじゃなきゃ保存した意味にならないんです。だから悪いんだけど、この新しいポンプ施設の妥当性にも、私は市民としてはまだ伺ってない情報があるかとは思いますがけれども。こんな必要があるのか、もっと他の方法があるんじゃないかなと思いますよ。だって台風の時に、山のように多摩川本流に水が来てる時にね、住宅地からの根川に来る水を、ゲートが閉まっているのに下から流すんですけど、そんなことしなくていいんじゃないですか、上から流せば。なぜそういう方法を考えられなかったんですか。調布市さんは途中で雨水を何とかする方法を考えていただけたんですか。狛江の大事な文化財を滅茶苦茶に壊されちゃうですよこれ。地形があるんですよ。平らにして残せばいいんじゃないんですか、この地形が大事な。ということです。

(参加者●●氏)

すいません、質問したくてきてるんですけど。ご意見をずっと言われてますよ

ね。質問をしたい人がいますので、お願いします。わたしが質問します。

(司会)

今の回答だけ先にさせてください。まず今回ポンプ場、地下を通して多摩川に戻すというのではなく、なぜ上ではないのかっていうところが一つで、あとはそれに対する調布市との兼ね合い。これがまとまった一つの質問としてまずご回答をお願いいたします。

(狛江市下水道課長)

狛江市の下水道課長の岩崎です。先ほどの説明の補足というところなんですけど、資料の7ページをご覧ください。こちらの右下の図がですね、今回ポンプを付けた時の水の流れ、水理学的な説明をちょっと簡単にさしていただいたものになります。こちらが前回の5月の説明会と同じ図なんですけども、①番ってというのが、左下にあります。こちらの①番のところではポンプで水を押し出します。ポンプで水を押し出しますと、吐き出し水槽という水槽をポンプ建屋の中に設けておきまして、その中の水面が持ち上げられる。持ち上げられた水面と、あと多摩川の水面、こちらに差がついてですね、水は高いところから低いところに流れていきますので、地中ですね、既存の排水樋管、③番を通過して押し出していくという形になります。ポンプを稼働させている時は、樋管は開いています。開いた状態で多摩川の方に無理やり押し込んでいくというような形。多摩川の方は増水してはいますが、水理的にはこれで十分流せるというのを確認しているところがございます。こちらの対策につきましては、ちょっと6ページに戻っていただきたいんですけども、6ページの右側の図ですね、先ほどと同じような説明になってしまうんですけど、すべての水が集まる場所というのが最下流部、もうちょっと詳しく言いますと、赤い根川雨水幹線というのが上から下に流れてきます。青色の根川第2雨水幹線というのが、多摩川住宅の中を流れてきます。あと緑色の根川第1雨水幹線というのが、同じく多摩川住宅南側を流れて入って来ます。こちらのすべての水を取水して、多摩川に出してあげないといけない。これを仮に、どれか1個でも逃してしまうと、その逃したものの、取水できなかった水というのは、そのまま下流部、ここの交差点付近のところまで溢れてしまうということになります。ちょっと我々も上流部で何か対策はできるのかと最初思っていたんですけど、それだと解消しないのです。解消させるためには、最下流部ですべての水を多摩川に流してあげることが必要ということなので、こちらの方にポンプ施設を作るという計画にさせていただきます。解消しないというのは、浸水して浸水が解消しないということです。浸水してしまうということです。以上です。

調布市との兼ね合いにつきましては、調布市の方で対策をしても浸水は解消しないというのが回答になります。狛江側の最下流部で対策をするのが必要です。このすべての水を取水して、多摩川に流すというのが、この計画の重要な要素になっております。

(司会)

それでは、次の方挙手をお願いいたします。

(参加者●●氏)

この工事で隣接している住宅に住むものでございます。この計画について、スライドのですね、15ページのところなんですけれども、計画の中では遺跡調査が来年度中に終わるという形で実にはですね、来年度も含めて、6年以上ですね、隣でずっと工事をしてるっていうことになりまして、子供の受験だったりとか、在宅で仕事をしていたりとか、そういうこともありますので、ちょっと心配しているのが、この遺跡調査が長引くんじゃないかっていうところを非常に心配しております。あとその遺跡調査の騒音、遺跡調査自体はそうないかなとは思いますが、いずれにしても、どれぐらいですね、どのような作業が入って、どれぐらいのことになるのかっていうところと、実際にその工事が始まってですね、どういう感じで日中に何時間とかですね、ちょっと時期的にもご配慮いただけるのかと、その辺についてお伺いしたいです。

(司会)

ありがとうございます。主には遺跡調査がどれぐらい延長になる可能性があるかどうかということと、工事についての配慮の内容ということでご質問でよろしいでしょうか。では回答の方お願いいたします。

(狛江市文化財担当副主幹)

期間的には、ちょっと長めに見ている感じです。今年度も8月に隣で試掘させていただいて、その際にはちょっと公園が現況どおり使える状態で試掘ということだったので、基本的にはちょっとすべて人力でやらせていただいた形なので、そんなに騒音は発生しなかったんですけども、資料の方の25ページに具体的な調査の方法がございます。今回の根川公園の範囲は、基本的にちょっと今までお話にも出てます石垣の部分より上が主に公園のメインになっているところの部分が台地の上になります。台地の上については、通常の遺跡発掘調査になりますので、最初に伐採等が済んだ後に、私どもの方で重機を入れてまず表面の土を全部掘削すると、それ以降は基本的に人力で、どんなものが残ってるかというのを確認しながら、見つかったものを掘り下げていくという作業になります。ですので、ものすごく騒音が発生するという部分はその最初の重機で掘削する期間、ちょっとご迷惑をおかけする可能性があるかというところなんです。ちょっとまだ具体的な調査の工程自体を検討しているところですので、若干入れ替えがあるかと思いますが、主に騒音が発生するのはその時期が中心になりまして、あとは人力での作業が中心になります。台地の上の調査と石垣部分の調査の期間はいちおう分けておりまして、なので東側のお宅に接する部分での台地の上の部分での調査をする期間というのは、1.5ヶ月から2ヶ月ぐらいを見ている形です。それよりその他にまた石垣の調査で、それなりの期間を一応見ているということになります。なので、お宅に接しているところで延々と6ヶ月もずっと調査してるという形にはおそらくないかと思えます。

工事が早く始まるかどうかあれですけど、調査自体がずっと横で、6ヶ月間重機が動いてるとかという状況ではございません。

(司会)

あとは実際の工事の内容についてご説明をお願いします。

(狛江市下水道課長)

狛江市下水道課長の岩崎と申します。今回計画に当たりましては、非常に大きな工事ということで、ご近隣の方には大変ご負担をおかけしてしまうと思っております。工事の対応につきましては、工事の内容に応じて、仮囲い、騒音等がどのように出るのか、それに対応して、どのような対策ができるのかというのは、調整しながらやらせていただきたいと思いますと思っております。現在、工事の方法につきまして、設計を進めておりますので、その中で調整させていただきたいと思いますと思っております。

(司会)

それではあと 15 分でおおよそ質疑応答の終了時刻となります。会場借用の都合もごさいますので、大変申し訳ございませんが、これから質問される方の人数だけ確認させていただきたいと思えます。

ご質問を希望される方はまず挙手をお願いいたします。それでは今、5 人の方のご質問をお受けいたしまして、本日は質疑は終了させていただきたいと思えます。冒頭でご説明させていただきましたように、質疑応答の時間でお伺いしていなかったご質問につきましては、同封の質問にて、個別にお問い合わせをお願いいたします。それでは挙手をお願いいたします。こちらから 3 列目の、前から 4 番目の方をお願いします。

(参加者 ■ ■ 氏)

座ったままで失礼します、中和泉 3 丁目 ■ ■ ■ ■ ■ に住んでおります ■ ■ と申します。皆さんご存知だと思いますが、六郷用水というのは、大田区の六郷村までつながっているというような江戸時代初期に作った用水でございますが、今、六郷用水の取り入れ口というのはわかんらないですよね。都道ができちゃってですね。どっから入ったかというのはわかんない。だけど、ちょうど玉川碑の鳥居の真ん前あたりがちょうど六郷用水の取り入れ口になるわけです。それで根川の水がですね、ぐるっと回ってその六郷用水の上を越して向こう側の水田に水が流れていたわけですね。非常に珍しい用水であります。17 ページの建物の下にですね、斜めの線が描いている、これ石垣の線だと思っておりますけども、工事をやる前にこの下を文化財が発掘されますよね。ですよね。建物の下、ここに要するに石垣がずっと 4 メートルぐらいが眠ってるわけです。まだ。だから上の石垣も大事ですけども、下の石垣がどういうふうにいってるかっていうのをですね、文化財で発掘されると思えますけども、その記録をですね、3 D のやっぱりカメラでちゃんと撮影して、立体的にそれが復元できるような、いずれ博物館が狛江にできましたら、そういう時に根川と六郷用水の関係と水位の関係と、それが立体的に示せるような資料をですね、十分お金を文化財につけていただいで、調査ができるようにしていただきたい。これはやっぱりちょっと高額になるけれども、3 D のカメラじゃないと、立体的な関係がですね、平面図だけじゃとてもわかんない

んで。そうすると石垣なんかはあれですね、撮影したことによって、ちゃんと記録が残ります。それをぜひ残していただきたいのと、建物もありますね、あの下に石垣があったわけですけども、この壁面があるじゃないですか道路側に。壁面なんかを利用してですね、今言った3Dで撮った資料を窓の下に壁面があるでしょう。ああいう壁面を利用してでも、そういうこの下にそういう石垣と水面があって、屋形船がかつて浮かんでいたよというような光景をですね、ぜひ復元っていうか、絵として残していただきたい。ちょうど今この目の前あたりが玉川碑の通りところは、六郷用水の取り入れ口ですから、やっぱり玉川碑は大田区や港区の人が来るんですね。どこから水が入ったのってわかんないんですよ、今の状況ですと。だから、あそこにやっぱり六郷用水の取り入れ口のところをちゃんと。この際ですね、やっぱりちゃんとわかるような表示をするなり、それで今言ったように、玉翠園の、これ玉翠園と、狛江にとってはもう大事な文化施設だったわけですね、明治から戦前にかけて。ですから、そういうものがあったことをですね、ちゃんと記録としても、もちろん残すでしょうけども、ここだったよっていうことがわかるように、今言われて石垣がなくなっちゃうわけですからほとんど。それも、今日決定するんじゃないかと、発掘が終わった時にですね、ぜひ何か反映できるような形で、余裕を持って工事をやっていただきたいと思います。

(司会)

3Dによる記録と、壁面を活用した、こちらにも記録の保存。

最後は用水の表示をわかりやすくするというので、こちら、ご要望として承らせていただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは次に続きまして次の方、挙手をお願いいたします。

こちらから2列目の一番後ろの方をお願いします。

(参加者▲▲氏)

西和泉の▲▲といいます。初めて今回参加させていただいています。基本的なところなんですけど、令和元年のあれから今年で8年。令和7年度でまだほとんど進んでないことに驚いたんですけれども。これからさらに工事が完了するまで令和14年までかかるというので、さっきの説明でちょっと私も去年の7月とか、今までの説明会は出たことがなかったもので、もう1回ちょっと基本的な質問で恐縮なんですけれども、今までにやった工事、対策っていうのは、どういったものがあって、それでこれからやるのはこれはわかったんですけれども、今その令和元年のような台風が来た場合の浸水シミュレーションはここにありますが、これはだから前回よりはかなり軽減されてると考えていいのか、そのあたりをちょっと教えて頂ければと思います。

(司会)

まずこちら今までの浸水における対策のご説明が1点。そのあと、もし今現況で令和元年と同じレベルの台風が来た場合どうなるかというところのご説明ということでよろしいでしょうか。それでは回答をお願いいたします。

(狛江市下水道課長)

狛江市下水道課長の岩崎と申します。これまでの取り組み状況といたしましては、前回の市民説明会、令和7年5月9日・10日で参考資料の中で取り組み状況というのはまとめて説明させていただいたところです。こちらの取り組みをやらせていただいたものが載っております、例えば10ページ。こちらがその一部になるのですが、排水樋管をちょっと見づらいと思うんですけど、遠隔操作をすとか、先ほどご説明させていただいた、フラップゲートを設置しましたとか、あと可搬式の排水ポンプを配備しています。その他、国土交通省の河道掘削や、小河内ダムの方で洪水対策というのをやっていたというように、その他にもいろいろ書いてあるんですが、そちらの方、やれることをどんどんやっております、どうしてもポンプ施設の設置に関しましては、非常に時間がかかる対策になりますので、できることをどんどんやりつつ、中長期的に取り組まないといけないものも、並行してやらせていただいているというように状況でございます。

(司会)

もう1点、令和元年度と同じレベルの台風がきた場合のご説明もお願いいたします。

(狛江市下水道課長)

現状で、令和元年東日本台風と同じ雨が降った場合というのは、今回の資料の5ページ。5ページをご覧くださいまして、5ページの右側の図になりますが、浸水は減ってきているんですが、この浸水というのは、残っているような状態です。いろいろ水位の情報だとか、そういう可搬式ポンプだとか、そこら辺でこちらの方の浸水に対しては、対策していくというようなところで、長期的にはポンプ施設の完成を目指してるところでございます。

(司会)

それでは次の方、挙手をお願いいたします。

一番こちらの列の前から3番目の方お願いします。

(参加者□□氏)

東野川□□の□□と申します。去年ですね、基本設計とか、工事の関係で、基本設計はどこがやるとか、そういうことは一切言われてなかったんですが、設計をやるのは、日本水工設計株式会社さんでやったということによろしいですかね。今もそこでやってらっしゃると。それとですね、今度工事にあたって、三社見積もりとか取るのかどうか。全くそれがなくてですね、詳細設計からすぐ工事に入っちゃってますよね。そこんところ三社見積もり、当然やると思うんですが、いかなもんか、あと5年前じゃなくてごめんなさい。去年は費用は20億かかるということを言われてたんですが、またこれが工期が延びると、費用も何割か増しになりますよということだったんですが、現在の費用の金額と、どのぐらい工事が延びるか、ここに令和14年度までに工事が終わることなんです。そこまで延びるんだと思うんですが、工事業者ですね、この辺はどういうふうに設定してるのか、お聞かせください。

(司会)

ただ今いただきましたご質問、こちらのポンプ場の設計については、日本水工か否かということがまず1点目。

2点目はこちらの工事につきましては、見積もりを三社見積もり等で行うのか。

3点目は令和7年度の時には20億のご説明があり、かかる費用は20億ということでしたが、現在の金額の推定値と、工事の延長があるのか否かというご質問でよろしいでしょうか。それでは回答お願いいたします。

(狛江市下水道課長)

狛江市下水道課長の岩崎です。1点目の設計の会社ですが、設計そのものは日本水工設計というところでやっておりますが、設計作業は東京都都市づくり公社という、下水道の管理とかを専門にやっているところが、発注して日本水工設計が設計作業を応札してやっているというような仕組みに現在なっております。

工事に望みましては、入札というような形で、なるべく費用を抑えるというような方法は考えております。

三つ目の費用なんですけど、去年の5月の時の説明では、公園の復元を除きまして、35億という見込みでご説明させていただいております。現在、詳細設計を進めておまして、その中でもうちょっと工事のやり方だとか、詳細な検討をして、全体的な費用については、決まってくるかと、精査されてくるかと思っております。どうしても大きいととも費用がかかるということですので、最大限費用低減には努めていきたいと思っております。

(参加者□□氏)

すいません。20億が35億になったということですよ。

(狛江市下水道課長)

違います。35億と説明させていただいております。去年の5月の説明会で35億と説明させていただいております。

(参加者□□氏)

20億ってのは。全部。

(司会)

それでは次の方、挙手をお願いいたします。

一番こちらの列の前から2番目の方お願いします。

(参加者◆◆氏)

中和泉2丁目の◆◆と申します。前回の説明会で、競争入札というのを行っていないというふうに聞いたんですが、さっきは今度工事にあたっては、それをすることだったわけで、この計画を立てるにあたっての業者さんですかね。そういう人の、そういうところもいろいろ検討していただければ、地域の人達の気持ちをちゃんと汲み取って、別の設計の仕方もあったのではないかなというふうに私ちょっと素人なんで、そういう言い方しかできないんですけども、そういうふうに感じました。それと工期が延びると、何回か延びてますよね。そういうこともあり、費用もやっぱり膨れ上がってるっていうこともあって、心配なのは、

ここ数年間、予想できない、水害が起きそうな事態になっているにもかかわらず、狛江市は何も発信してくれなかったなんていうような不安があるんですよ。ですので、いろいろといろいろな手を、フラップゲートつけたとか、そういうことも大事かもしれませんが、もっといろいろな減災するアイデアをいろんなところに意見を求めて、その上で、今があるのかってということがちょっと疑問に感じています。それで、工期が延びたってということでその間さっきの方がおっしゃいましたけれども、どういうふうに私たちが避難をしたらいいのでしょうか。発信していただけないってということで、とても不安に感じております。

(司会)

今のは、基本のご意見という形で承らせていただいてよろしいでしょうか。ただ、避難に関しましてはこちらの方からご説明という形でよろしいでしょうか。もし予想外の災害が雨が降った時とかの避難に関してのご説明をお願いいたします。

(狛江市下水道課長)

狛江市下水道課長の岩崎です。令和元年東日本台風なり、大きな水害というのが、起こるっていうのは、ありえなくはないと思っております。その際ですが、どのような水害が起こるのかというのは、狛江市の方で、ハザードマップというのを作成しております、それが想定し得る最大の降雨の時にどうなってしまうかって言うのを発行させていただいております。それを見ていただくと、ここまで水が来るんだとか、避難方法とか、そこら辺を説明させていただいております。ちょっと今日用意がないんですけども、市のホームページ等で公表させていただいておりますので、もしあれでしたら見ていただくか、後ほどご案内させていただきます。

(参加者◆◆氏)

避難所を開設していただけていないですよ。昨年の世田谷区とか調布市なんかはすぐに開設して、ピストン輸送をしてくれたというように聞いていますが。狛江市は防災情報ですかね、そもそもが流れてこなかったと思いますし。テレビなんかで、国分寺崖線ですかね、あの辺が危ないっていうのが流れてきたので、狛江もたいへんだねってなったのですが、そういうのが流れて来ない狛江市ってどういう風に考えているのか。これがその逆流防止装置ができて、それがどれだけの効果があるのかということも把握できない、それだけでは間に合わないじゃないかと思っておりますので、いろんな減災の方法をもっと広く意見を取って取り組む必要があると思います。防災無線とコマラジですか、コマラジと市の防災関係のところとタイアップして情報を流してくださるという話を聞いたんですが、それがなかったんですね。というその辺のところはどうなんでしょうか。

(狛江市安心安全課長)

安心安全課長の松井と申します。水害に関しては、あらかじめ気象庁の情報とかで、いつごろ来るとか、どれぐらいの量というのは把握しております。また水害については避難した方がいいというのもあらかじめわかっているので、ある程度

予想されることですから、安心安全情報メールとか、あと市の SNS の方で発信をしてございます。

昨年ですね、今おっしゃった国分寺崖線の方で被害があったけど、狛江はどうかしらというようなご不安を抱いてらっしゃったとお伺いをしましたけれども、世田谷区の方の国分寺崖線が狛江市の方にも繋がっているんですけども、狛江の方はですね。北側の東野川の先に谷戸橋地区センターの方で3宅地ぐらいが該当してるんですね。そちらの方々には直接訪問して、危険がありますってっていう話はして、ご認識はされてるんですけども、狛江市域全体でっていうところでは、発信しますと、下手に不安を煽るといふのがあるので、そういったところはやっておりません。

(参加者◆◆氏)

不安を煽るから発信しないというのは違うんじゃないかと思います。

(狛江市安心安全課長)

狛江市全域の全市民の中の3宅地というところもあるので、ちょっと控えさせていただきまして、それはご意見として承ります。

(参加者◆◆氏)

何もなかったからよかったって思いますけれども、何もなかったから何もしなくてよかったっていうわけではない。

(狛江市安心安全課長)

すみません、土砂災害というところでは、ご意見として承ります。

(司会)

それではこちら、最後の方になると思いますが、お願いいたします。

これで最後でお願いいたします。ちょっと時間が過ぎてしまったんですが、これで最後にさせていただきます。

(参加者××氏)

すいません。三度目で。名前を言い忘れて、元和泉1丁目に住んでおります××です。この地域のアドプトで根川公園のごみ拾いと向かい側の多摩川のエノキの木の下のごみ拾いを10年やりました。それはちょっととりあえず別なんですけれども。いろんなこと言って、工事が遅くなったりすると本当に水害対策ですから、困る方も出てくるので、その点を質問させてください。ページで言うと5ページもう1回なんですけど、この工事を、今までやってくれた工事だけでも、不十分で、水色の部分のような水害、要するに5センチから25センチぐらいの水害が、水色の地域に発生する可能性があるってことですよね、現状では、現状対策した後でですね。これをゼロにしたいということだと思いますが、多摩川住宅の二号棟の部分は、今建て替え工事をしていると思います。それで、このフラットゲート設置横の民間マンション大きなマンションがありますよね。そこが水色にかなり塗られているので、多摩川住宅は建て替えるときに、こういった情報をもらって、例えば、前は駐車場に水が上がって、電動自転車のバッテリーが浸水したとか、車が浸水したっていう被害があったと思いますけど、こういうこ

とがないような対策を、この建て替えを今しますよね。その時にもうすればいいんじゃないかな。調布も建て替えてる部分ですから、あとちょっと民間の一般住宅の方が調布の方、ちょっとまだ水色で残ってますけどね。ですから、その多摩川住宅に関してはそういったことをお伝えいただいている、できれば嵩上げみたいなことをしてもらったのかどうか。それから、ひとつ民間の大きなマンションがありますよね。根川の、ここの向かい側かな後ろ側か。後ろ側ですね。そちらのお宅なんかは、何か対策をなさっているのかってということで、現状でも五、六年先じゃないと完成しないわけですから。それはちょっと確認させてください。

(狛江市下水道課長)

私の方でちょっと説明させていただいてもよろしいですか。こちら、現状でまだ浸水が残っているっていうのはあるんですが、令和元年東日本台風以上の浸水っていうのもあるでしょうし、今、多摩川住宅さん、建て替えておりますが、嵩上げ等もやっておられるっていうのは、聞いております。そこの自助で対応していただいているところもございますし、市の方としても最大限やりたいと思っておりますので、両面でやらせていただきたいということで考えております。

(参加者××氏)

八町田んぼっていうぐらい沼だったんですよ。そこはわかっている、嵩増しをするのは、民間の方の義務ですね。

(狛江市下水道課長)

すいません。市の方として、対策がここはいいよとか、そういうのは全く思っておりませんので、どういう地形かっていうのはいろいろありますが、今回、令和元年東日本台風で、大きな水害があった。これは市の取り組みとして、解消するというところで動いておりますので、そのところをご理解いただきたい。市の方の説明会ですので、質問として、ちょっとふさわしくないかなとは思いますが、説明会としては市として、このようなお答えをさせていただいたと、そういうところで、お引き取り頂ければと思っております。

(司会)

申し訳ございません、本日はもう質問を一旦区切らせていただきたいと思いますんですが。もしあれば、市の回答ではないので申し訳ございませんが、個人的なところでお願いできますでしょうか。

それでは、本日の質疑応答は終了させていただきたいと思えます。

お時間を過ぎてしまい大変申し訳ございませんでした。

本日の説明会でお伺いできなかったご意見ご要望等ございましたら、2月24日までに説明会資料最終ページに記載しております郵送、メール、FAXまたはロゴフォームにお送りいただけますようお願いいたします。

以上をもちまして、本日の説明会は閉会いたします。

本日は、ご来場並びに貴重なご意見いただき、ありがとうございました。

繰り返しになりますが、本説明会の議事の要旨は準備が次第、狛江市のホームページで公開いたします。

なお、職員が片付けでしばらく残っておりますので、何かありましたらお声掛けください。

それでは、お忘れ物にご注意いただき、お気をつけてお帰りください。